

立候補意思表明書

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟役員選任「立候補意思表明書」
2015年4月24日 福永 信也

二年前より初めて理事に選任されまず取り組んだのは、公益社団法人のJHFがどのような立ち位置にあり今後向かうべき方向性の再確認。一フライヤーと言う立場だけであれば考える必要もない事。約20年も安全にフライトして来れたのは、JHFの御陰であり、多くの先人・諸先輩方が尽力されていた事に改めて実感する事が出来ました。

補助動力委員会とハング・パラ振興委員会の担当理事をさせて頂く事により多くの委員の方々の熱い意見や想いをお聞きすることが出来、活動は意見集約から具体的内容へと進捗し理事会承認を経ると言う段階まで来ているものも有れば全く手の付けようの無い懸案もある。更に進めて行く為の立場として理事と言う役職があると感じています。

少子高齢化と人口減少の流れは我々フライヤー人口の減少にも連動し、一定の経済成長が鈍化している日本においてスカイスポーツの浸透は今後大きな課題でありJHFの存続にも関わる問題。また、事故となると大きく取り上げられるスポーツであり安全性に重点を置く事は最大のテーマであると考えます。

更に掘り下げて行くとしたらFAI・航空協会・国土交通省・他スカイレジャー・スポーツ団体との連携・情報交換も頻繁に進めて行く事が必須課題と言う事にもなるでしょう。

フライトエリアは、地方である事から地域との連携も考慮した活動としなければ空を自由に飛ぶ事は不可能となります。四国と言う恵まれたフライト環境ではあるものの様々な問題や課題を更に共有すべく今後日本のスカイスポーツ発展と国際的な地位を高めて行く立場として継続立候補させて頂きました。